

Bibliophiles

ビブリアファイルズ No.3(2017年度)

新着図書案内・お知らせ 西宮東高校図書館

(ここで紹介するのは新しい本の一部です。)



『2秒で最高の決断ができる 直観力』 メンタリスト Daigo

「ヒヨコがオスカメスカを瞬時に識別する」プロがいます。1羽あたり2秒の猛スピードで識別して、的中率は99.5%。しかも、彼らの能力は教えられるものではなく、「長年のカン」だということです。と言う訳で、この本のテーマは「直観力を鍛えること」です。科学や心理学を応用した直観力のトレーニングに興味があれば、少しページをめくってみて下さい。なお、作者の「メンタリスト」という耳慣れない肩書きは「人の心を読み、操る技術者」です。

『うつヌケ』 田中圭一

1996年には43万人程度だった「うつ病」患者は、昨年ついに110万人を超えました。僕たちにとっても身近な心の病になりましたが、この本の作者は自殺したいほどつらい「うつ病」のトンネルを抜けてきた(快復した)経験があります。そこで漫画家の彼は、ミュージシャンや作家など多くの著名人のうつ病患者を取材し、漫画の形で分かりやすくこの病気の症状や対処法をまとめて本にしました。ぜひ一読してみてください。

『いのちの車窓から』 星野源

俳優・ミュージシャン・作家とマルチな活躍ぶりで人気の星野源氏の最新刊です。内容はエッセイ集で、雑誌『ダ・ヴィンチ』に連載中のエッセイに2作のオリジナル(書き下ろし)エッセイを加えたもの。題名の意味を作者はこう語っています。「人生は旅だというのが、確かにそんな気もする。自分の体を機関車に喩えるなら、この車窓は存外面白い。」

『僕だけがいない街 9』 三部けい

前巻の「8」をもって完結したはずの人気コミックですが、「外伝」という形で「9」が出ました。8巻まででは描ききれなかった登場人物たちの側面を、作者は別の角度から描いています。見方によれば、これこそが本当の「完結編」なのかも知れませんね。



『「ローマの休日」を観るだけで英語の基本が身につく DVDブック』

藤田英時

ヘップバーン主演の映画は日本でも人気が高く、また聞き取りやすい発音が多いので英語学習には打ってつけですね。下の「お知らせ」にもある通り、図書館内でDVDの視聴が出来るようになりましたので、この本を字幕代わりにして、ぜひお試し下さい。got to が gotta と発音されるなど、話し言葉に特有の「音変化」も、この本ではバッチリ解説されています。

なお、この映画の Roman Holiday というタイトルには実は二重の意味が込められているのですが、それはまた別の機会にでも。

『武士の家計簿』 磯田道史

最近司会など、テレビ出演が増えている筆者ですが、本来は歴史学者で、中でもこの本は歴史書としては異例の20万部以上を売り上げたベストセラーでした。(これを原作とした映画も出ています。)内容は、幕末の武士の実生活がテーマで、江戸から明治を生きたある武士の家計簿をもとに、武士の暮らしぶりや年収などに踏み込んでいきます。

図書館からのお知らせ

視聴覚コーナーを設けました。今のところ図鑑の「MOVE」シリーズの付録DVDや『ローマの休日』などを視聴できます。また、視聴可能なDVDなどが付いている本には印を付けています。視聴を希望する人は、カウンターでDVDやCDと機械類を受け取って所定の場所でご視聴下さい。

『黒死館殺人事件』 小栗虫太郎

夢野久作の『ドグラ・マグラ』、中井英夫の『虚無への供物』とともに、本作品は日本ミステリー史上の「三大奇書」の1作と呼ばれています。ここで言う「奇書」とは「奇抜な・風変わりな本」ということで、どれだけヘンテコな作品かは、多分読み始めてすぐに、皆さん気付かれることと思います。「普通のミステリー」が読み飽きた人、一度挑戦してみたいかですか？

『ざんねんないきもの事典』 今泉忠明

「カメムシは自分のにおいがくさすぎて気絶する」「はちみつはじつはミツバチのゲロ」・・・生物たちの進化の結果、「ざんねん」な生態や特徴を身につけてしまった例をイラスト付きで数多く解説してくれます。面白さは抜群で、もちろん生物への理解も深まります。

今号のひとこと

Ce qui embellit le désert, c'est qu'il cache un puits
quelque part... Antoine de Saint-Exupéry(1900-1944)

砂漠が美しいのは、それがどこかに井戸を隠しているからなんだ・・・ サン＝テグジュペリ(1900-1944)

おなじみの『星の王子さま』からの一節ですが、この本はフランスの新聞「フィガロ」によれば、「300もの言語に翻訳され、聖書について世界で2番目に多くの翻訳本を持つ」とされています。世界中の人を魅了するこの本を、皆さんはもう読みましたか？読んだ人も多いでしょうが、上のフレーズのように詩的な表現がちりばめられていますので、フランス語の響きを味わうためにも、ぜひ一生に一度は原文に挑戦してみてください。

5/19 金曜日放課後に『星の王子さま』を題材にして、図書館で読書会を行います。誰でも参加できますので、興味があればのぞいてみてください。